

## 令和元年度 JERT 主催「救急撮影講習会 in 福岡」参加報告記

九州大学病院医療技術部放射線部門 倉本 卓

令和元年 12 月 8 日、九州医療センターにて開催された「救急撮影講習会 in 福岡 ～初級編：当直どげんしたらよかと？～」を受講した。参加者は広い年代の方を拝見したが、特に 30 代前後の方が多く感じられた。そのせいもあってか、参加者がゆっくりと聴講するには十分すぎる会場であったが、200 名近くの参加者の救急撮影業務に対する熱い思いが、肌寒さを感じるはずの 12 月の福岡の会場に熱気を運んでいた。

今回の講演は、どれもすばらしい内容で、講師の先生方の情熱が込められたスライドを準備いただいております。初学者・熟練者の両者が聞いても非常に興味を持てるような工夫がされていたと思う。そんな中で、私が特に感銘を受け印象に残った講演は 2 つあり、「救急の看護師さんが怒っている！何で？」についてお話いただいた九州医療センターの診療看護師 前川雄三先生の講演と、「失敗に学ぶ外傷患者の撮影のコツ」についてお話いただいた健和会大手町病院の片野田光洋先生の講演である。

前川先生の講演では、先生自身、救急診療に関わる看護師として勤務されている中で意識されている、救急患者に対する看護師としての役割や目線、注意点などを、分かりやすくお話いただいた。これらは、画像検査時のわずかな時間しか救急患者と接することがない診療放射線技師にとって、どのような観点で患者を診ているのか、我々の業務や対応がどのように映っているのかなど、気づかされる内容であった。片野田先生の講演では、まず御施設の時間外スタッフの体制が紹介された。CT、MRI、血管造影それぞれ対応できるスタッフを夜勤・待機に配置し、様々な状態で来院する患者に対して、迅速な対応が出来る体制を整えられていると説明されていた。また、時間外での撮影においては、撮影するだけでなく、時間のあるときに撮影した画像を見直すことの重要性を、先生ご自身の経験の元、熱くお話いただいた。また、骨折を伴う救急患者に対する一般撮影においても、骨折の分類や治療時に必要な計測等に対して最大限に思考を凝らし、可能な限り情報量の多い撮影を心がけているという話をされており、その豊富な知識と患者ファーストで取り組む姿勢には非常に感銘を受けた。

今回の講習会に参加したことで、知識の再確認、他施設の取り組み方、医師・看護師の方の知識などを短い時間の中で凝縮して学ぶことが出来た。そして、我々診療放射線技師には、ここで得られた知識を自施設の中でどのように活かしていくかが、これからの一步になると痛感した。

最後に、講習会を開催していただいた日本救急撮影技師認定機構の皆様、並びに講師の先生方、実行委員の皆様に感謝を申し上げます。

令和元年 12 月吉日

